

## 会 議 録

- 1 会 議 名 第2回(仮称)子ども憲章検討懇話会
- 2 会 議 種 別 市政運営上会合
- 3 開 催 日 時 令和6年5月31日(金)  
10時00分～12時00分
- 4 開 催 場 所 北九州市役所本庁舎 15階 15C会議室  
(北九州市小倉北区域内1-1)
- 5 出 席 者 氏 名 別添「出席者名簿」のとおり
- 6 次 第 (1)開会  
(2)議事((仮称)子ども憲章について)  
(3)閉会

### 7 会 議 経 過 (発 言 内 容)

【議題「(仮称)子ども憲章」について】

(資料に沿って、事務局より説明。)

○「市民全員」という主語がいいなと思う。9ページの一番上の北九州市が目指す姿は、国も「こどもまんなか」との施策を掲げているので、2行目の北九州市全体で子どもや子育て家庭を応援するというのに一番合っているんじゃないかなと思う。

○街とか市を主語にしてしまうと当事者意識を持ちづらい。自分事としてとらえられるような表現がいい。

○最初にひとつ確認したい。このキャッチコピーは、行政が内部的に持ってまちづくりを進めていこうという宣言なのか、それともひとりでも多くの市民との価値観の共有をはかっていくものなのか。

○この言葉の中で、「市民全員で」応援していますとなってくると、「なんで私が？」

というのが必ず出てくる。むしろ「なんで私が」という人たちの気持ちを変えていくような投げかけ、言葉にしていく必要がある。

○今お話を聞いて、「ちくちく言葉」という言葉が最近定着してきたなと思う。

○「ふわふわ言葉」と「ちくちく言葉」という、「ふわふわ言葉」とは肯定的、人に対して優しくなるような気持ちが良くなるような言葉。「ちくちく言葉」とは、人を傷つける言葉。「ふわふわ言葉」と「ちくちく言葉」の使い方は、小学校低学年の授業の中でも、頻繁に取り上げられる。

○子どもっているだけで和む。どんなに泣いてても怒って暴れてても。そういったところを言えると良いのかなと思う。

○「〇〇言葉」とか、話しかけるような言葉に変えていくと、もっと人の心に入っていくんじゃないかなと思う。このキャッチコピーのコンセプトが「私そうだっけ」とか「できてるかな」とか、そういう言葉になって発信されると浸透力が増していくのかなと思う。

○子どもにわかりやすいような言葉が入っていると非常にいい。例えばスイッチにすると、それこそ「にこにこスイッチ」のステッカーとかバッチとか作ったら、押されるとか自分で押すとかみたいなこともできるし、壁にステッカーが貼ってあったら押すとか、そういうことができる面白い仕掛けとしてはいい。

○もっとやわらかい感じができたらいい。視野が狭くならないように、周りがフォローするような言葉ができたらと思う。「にこにこスイッチ」はいいと思うし、「ふわふわ言葉」はいい言葉なので、そういうものを盛り込めたらいい。

○この少子化の時代に、子どもって宝だと思う。もっと北九州市は子どもを大切にしますというところを打ち出してもいいのかなという気もする。市全体で応援していますよという言葉はありがたいと思う。ひとりで子育てしてらっしゃる方とか、孤独感を感じていらっしゃる方がいる。身近に誰かがいるという安心感があるような、北九州市がそういう街だと良いなと思う。

○もう少し言葉の選択など、うまくまとめて「にこにこスイッチ」のような、造語でもいいし、何か生み出されたインパクトのある言葉が盛り込まれるといいなと思う。フワーツと浸透するような、気持ちがよくなるような、考えさせられるような、そんな言葉が出ると良いなと思う。

○「みんなで成長」や、「子ども目線」は、もうちょっと言葉を変えて伝わると良いかなと思う。キャッチコピーも、短くぎゅっとした方がいい。

○よそを頼っていいんだよとか、当事者が少しでも楽になる言葉っていうのがもう少し入ってくるといいのかなと思う。

正直、ほとんどの人が自分の子どもに対しては無理。自分の子どもにできないことを、斜めの関係を作って、自分の子どもじゃないけど、例えばパパ友、ママ友の子どもに対して接してみるとか、それができればある意味親としては良いのかなと思う。

その中でいうと「愛情コラッ！」は、ぎりぎりな言葉な言葉だと思っていて、あんまり盛り込むべきじゃないんじゃないかなと思う。叱ることを肯定すると、解釈によっては、これは愛があるならいいんじゃないですかってなってしまうのは、避けたほうがいいんじゃないかなと思う。

○肩の力を抜いて、スローな感じで子育てしたらいいんじゃないのという、そんな内容のものを盛り込まれるといいかなと思う。この「みんなで成長」では、ともに成長ということなんでしょう。だから子どもが伸びていくのと同時に親も一緒に伸びていくよねって、お互い相乗効果でみんなより良くなっていこうということを言いたいんだろうかなと思う。そんな言葉が何か見つけれないかなと思う。

○大変なのが当たり前なんだよっていうのを伝えて、肩の力を言葉で抜けるような、受けとめる方が「そっか」と思えるようなものを入れられるといい。

○子育て世帯以外も見ると思うと、あんまり大変感が出ると、「子どもがいたらそんなに大変なのか」みたいな感じはあるのかなと思う。渦中の人には「大変だね」って言ってもらうとすごく嬉しいしわかってもらえるって思えるけど、それ以外の人に広がる言葉としてはちょっとデリケートかもしれない。もともとの目的が、地域みんなで子育てを温かく見守っていこうみたいなところなので、そういう気持ちがフワッと出るようなところに落ち着くしかないのかなというふうに思う。

例えば、「愛情コラッ」の話がありましたが、私はあんまり地縁がない中からこちらに来たときに、商店街とかでうちの子どもに怒ってくれたりとかはすごく温かく感じた。それは愛情のある教育的なというか、自分の子どもとか孫にするようなことを、他の大人がしてくれる環境はすごいすてきだなと思った。

○大切なことを発信しているが、大人と子どもの関係性が対等感がない。大人は子どもに幸せをもらっている部分も本当はたくさんあると思うが、そこが見えてこなく

て、大人が子どもをどうにかするとか、この議論の前提にある双方向のお互いがそれぞれ享受するみたいなのところが見えてこない。ちょっと上下関係が見えすぎているかなという感じがする。

○子どもは、不足している足りなげな存在だから、大人がなにかを与えてやろう、正してやろう、ではなく、ひとつの個としてリスペクトした上で接するというのはすごく素敵だなと思っていて、そういった意味では、対等感がないというのは変わってくるのかなと思う。

○「にこにこスイッチ」、この言葉が出た経緯は、子どもが健やかに育つまちってどんなまちかなと考えたときに、周りの子育てをしていない人も含めて、子どもがいることを素直に受け入れてくれるまちだと思う。ただ、それを応援していくことは人によって受け入れ具合も違う。実際に評価して手助けして欲しいと言う人もいるが、子どもに触れるのはちょっと嫌だなんていう人もいる。そんなときに、「にこにこする」はできるなと思っていて、心理学的に笑うと伝染するとか、表情筋が刺激されてポジティブな気持ちになるとかがある。距離感の節度を守った、みんなができるアクションということで、「にこにこする」というのが、一個目のラインなのかなと思って設定している。

○子どもってかなり低いところから世界を見ている。全然世界が違う。同じ目線に合わせるということは大事なこと。「子ども目線」という言葉が硬いなと思っただけで、内容はすごくいい意味があると思うので、そこをうまく表現できたらいいなあと思う。

○子どもが泣いているときに、大丈夫ですよって言ってもらえるとすごく心が軽くなったとかもあった。泣いているとき、何かしてほしいわけじゃなくて、うるさいなという顔をされなければいい。にこにこしてもらってたらそれだけでもすごいありがたいんじゃないかなと思う。こういうことに関しては、それぞれ、いろんな意見があると思う。市民の方一人一人が、取り留めない意見が交わるようなきっかけになっても面白い。

○「地域みんなで取り組む、子ども・子育て見守りアクション」ってやっぱり重たいなと思う。捉え方のニュアンスとして、例えば、「地域みんなでとなえる楽しい子ども・子育てのための魔法の言葉」みたいにして、魔法の言葉のキーワードを、「にこにこスイッチ」に置き換えたり、大丈夫だよとか呼びかけるような、そういうキーワードを盛り込めたらより良い。「にこにこ」もそうだが、アクションとして唱えるような。それを1つ発することによって、受け手の気持ちが変わったりするよ

